

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1192800173		
法人名	有限会社 アートライフ		
事業所名	あおぞら宮寺		
所在地	埼玉県入間市宮寺1721-1		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご入居者様が生活しやすい環境作りを日ごろから考えています。人的環境では、身体拘束や虐待防止に努め、ご入居者様お一人ひとりと関わりをしっかりと持ち、信頼関係もしっかり構築できています。物的環境では、ご入居者様にとって危険がないか、不便がないか考えながら環境整備にあたっています。ご入居者様、ご家族様にとって、安心して生活できる「家」となるよう努力しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・新しく理念を見直し、「笑顔で心温まるホーム」の考えを基本にアットホームであること、「自分の家」であることを職員全員が共有し実践に繋がっている。入居者へのケア面では特に排泄の自立支援に力を入れ、オムツに頼らず、プライバシーやプライドを大事にした支援が行われている。また、季節感を感じる行事食を工夫されたり、入居者・家族が面会できない寂しさを補うため、「あおぞら面会」を企画し、外でガーデンチェアを利用しながら面会いただき、双方の笑顔も見られて、喜ばれている。 ・運営推進会議については、コロナ禍で開催はされていなかったが、今後はこれまでのメンバーに加えて、新しい入居者の家族にも声かけを行い、幅広い意見を取り入れていくよう検討されている。 ・目標達成計画の達成状況についても、災害対策について取り組まれ、発生時の連絡網の見直しや応援に来るまでの所要時間の確認などが行われたことから、目標が達成されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各フロア事務所内に掲示し、いつも確認できる用になっている。	新しく理念を見直し、「笑顔で心温まるホーム」の考えを基本にアットホームであること、「自分の家」であることを職員全員が共有し実践に繋がられている。入居者の意向を大切に、楽しく過ごしていただけるよう支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過にて、外部との接触は避けているが、散歩途中ですれ違う近隣住民方とは挨拶を交わしている。	散歩時に近隣の家の庭を見学させていただいたり、畑仕事をされている方と挨拶を交わすなどの交流がなされている。今年目標に「外に出かけること」、「近くの店に買い物に行くこと」などを取り上げ、その方法を皆で検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過にて、外部に出向いて支援は行っていないが、ご入居の相談など、介護の大変さに共感しながら、私達が経験してきたことをおり混ぜながら支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対応にて、運営推進会議を開催できていないが面会もできるように推進会議の開催を行う予定。	運営推進会議は、コロナ禍で開催はされていなかったが、今後はホーム内での開催を予定されている。これまでのメンバーに加えて、新しい入居者の家族にも声かけを行い、幅広い意見を取り入れていくよう検討されている。	開催に向けた取り組みが検討されていることから、新しいメンバーに対して今までの取り組みを紹介するなど、参加しやすい環境を作られることに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携に関しては主に、介護保険課、高齢者支援課、生活支援課との関わりがあり、相談、報告、助言などを頂いている。	介護保険課や高齢者支援課とはコロナ問題や介護保険の更新、虐待や身体拘束の相談などが行われ、アドバイスを受けるなど連携をされている。また、生活支援課とは生活保護者について相談・報告がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び虐待に関してはセルフチェックシートを使用し、結果をもとに職員会議にて議題としてあげている。	職員会議の中で身体拘束について現状の把握とセルフチェックに取り組まれ、言葉使いや福祉用具の不適切な扱いなどを議題に話し合われている。特に「コールストップ」による行動の制止などには職員全員が注意を払われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び虐待に関してはセルフチェックシートを使用し、結果をもとに職員会議にて議題としてあげている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様は複数名おられる。成年後見人様との関係も良好で、様々な話を聞くこともでき、学びに繋がっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時から困っている事、不安、疑問を尋ね、ホームでできること、できないこと、ご家族様に協力をいただくことなど説明している。契約時も契約書、重要事項説明書の読み合わせ時に説明し理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	11月～12月にかけてご家族様に向けてアンケート調査を行っている。アートライフ全事業所で行われ、管理者会議において情報の共有も行われている。	家族へのアンケートを実施、意見や要望をお聴きすることに加えて、戻りがなかった家族へのフォローにも取り組まれている。入居者とはこちらから「何が食べたいですか」など話しかけ、気持ちをお聴きするよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議のみならず、日常的に意見や要望などの訴えがあり、都度話を聞き対応、反映させている。	日常生活の中、職員の意見や提案は出しやすい環境にあり、職員間での話し合いも活発に行われている。「お正月に色紙に抱負を書いて貼ってはどうか」、「インターネット利用ができるTVを購入したらどうか」など建設的な意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談表には職能要件(経験、職能レベル)によって内容が分けられている。マイナスの指摘だけでなく、個々人の良さを更に伸ばせるよう話を聞いている。勤務に対する希望、形態、勤務変更なども柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の向上心、意欲、適正を見ながら上級資格取得支援や、研修参加の呼びかけを行っている。新入職員に対しては、トレーナー・トレイニー制を導入を始めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム管理者が集まる会合に参加し、情報交換や交流をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行うが、話しやすい環境作り、話題、口調、自発的に話しやすいよう気を付けている。入居後は他ご入居者との関り方などを観察しながら必要に応じ職員が介入し、他者と打ち解けられるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に必ずホーム見学を行っていただいている。雰囲気、生活の様子を直に見ていただくため。その後事前面談を行うと共に、希望、要望、困っている事など傾聴し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスの優先度を常に見極めながらその方にあったサービスの提供ができるよう提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員が一方向的に「介護」するのではなく、ご入居者の経験、体験、知識などから職員が学ぶ姿勢を大切にしている。それらの言葉に耳を傾け受容することによって職員間、ご入居者の関係作りをより強いものとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居相談時、入居時、入居後も常に「入居したらそれまで」にならないよう、絆が断ち切れないよう話をさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人知人からの電話があれば取り次いでいる。馴染みの場所については、インターネットを使用したりしている。	外との関係継続が狭められる中で、入居者同士が新しく馴染みになるなどへの支援も行われている。昔馴染みのおはぎやうどんを作ったり、お手玉やけん玉、カルタ、将棋などの遊びも取り入れ、更に飲酒の習慣にも対応されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関りについては日々職員間で情報交換をしている。また、カンファレンスでも取り上げることがある。ご入居者同士の関りが困難な場合は、介護職員が間に入り支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、困った事など相談あればいつでも連絡いただくよう声をかけている。状況を見ながら施設側から電話させていただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動から本人の希望や要望、意向等の把握に努めている。また、それらの意向に沿うことが難しい場合でも可能な限り近づけられるよう努めている。	入浴時や散歩で寛いでいるときのコミュニケーションから思いを把握したり、発語が少ない入居者とはケア中に拒否されたことから、逆に要望や意向を探るなどに取り組まれている。昔話から「競馬が好きだった」などの本音を聴きだし、中継を見ながら楽しまれた例も伺われる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集を行っているが、入居後情報と実際の生活に大きな違いがあるため、入居後も常に情報収集を行っている。ご入居者本人の話から、ご家族でも知らないような話が良くあり。ご家族にも報告するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言動、行動、記録、バイタルサインなどの情報を通して、その人の変化を見逃さないよう観察をしている。また、特記すべきことは常に記録と職員間で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	高い目標を設定してもご入居者、介護職員の肉体的、精神的な負担になりかねず、目標達成は難しい。今ある力、能力の低下予防、維持を目標に、入居者本人、家族、介護医療職員の意見、アイデアを計画に反映させている。	入居者や家族のニーズ、目標、サービス内容が明確なケアプランが作成されている。ケアプランの個別サービス計画に「趣味活動、生活の質、会話」などの細かな項目を記載し、現場職員とケア行動の統一を図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には特に、普段と違った言葉、行動、様子は記録し情報共有をしている。また、往診医、訪問看護などにも報告し、医療観点からの見解なども反映するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染予防から、買い物は代理で行っているが、令和5年度は少しずつ外出することを目標と掲げている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険課、高齢者支援課、生活支援課、社会福祉協議会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などから地域資源情報を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	わかさクリニックより往診に来ていただき、ご入居者の健康管理を行っている。眼科、婦人科以外の科があり、総合的に診ていただいている。他科受診が必要な場合はご家族に相談している。	日常的には24時間対応の往診医の協力が得られ、入居後移行される入居者も多くおられる。入居前からのかかりつけ医の選択も可能で、家族が同行され、通院の前後には介護記録などで情報共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、クリニックには随時連絡相談ができる体制になっている。些細なことでも相談し、適切なアドバイス、対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院加療しても、早期退院を医療機関と話し合いながら、ADLの低下を最小限にできるよう努めている。また、入院時のDrからの説明や、退院前の面談(ムンテラ)には病院から声をかけていただき、退院後の注意点など聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談、契約時に重度化した場合の説明を行っている。特に終末期に関しては2名お看取りをさせていただきます。	重度化や終末期に際しては、入居者や家族が医療行為を望まれるか、自然な最期を迎えることを望まれるかを状況に応じて話し合いを持たれている。職員には看取りへの研修や気持ちのフォローなどに力を入れるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や救急対応マニュアルの配置、対応方法については事務所に掲示している。事故発生時は軽微な事故でもわかさクリニックへ報告を入れ指示に従う体制としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行っているが、火災想定訓練のみとなっている。近年地震が増加しているため消防から地震訓練の指導を受けたいと考えている。防災用品、備蓄も行っている。	ハザードマップの確認を行い、特に火災と地震に注意した災害対策が講じられている。グループ内の他施設とお互いの避難場所を確認したり、避難経路を歩いてみるなど実践的な災害への備えが行われている。	実践的な訓練を実施していることから、「災害発生時に職員がどのくらいで集まれるか」、「何をやるべきか」など、一つひとつの訓練を通して職員の防災意識のレベルアップに取り組まれることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言動や対応、ご入居者との関り方についても注意し、常に親しみをもちつつも、節度ある対応を心掛けている。	プライバシーや羞恥心に配慮して、排泄時にはドアを閉め、入浴の着脱時には見えないような対応がなされている。また、入居者間で不適切な言葉使いがあった場合は双方の気持ちを配慮してから介入するよう心掛けられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者に合わせた声掛けを行っている。意思疎通が困難な方には、表情や仕草の変化でくみ取ったり、筆談を行いながら、選択肢の幅が広がるような声掛けを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、一人一人の体調や調子、様子、精神状態を見ながら、幅をもって対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に持ち込まれた衣類を長く着られている方も多くおられる。女性であればお化粧をされている方もおられたり、髪染めを希望される方もおられる。可能な限り希望に沿う対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「自分の力で食べる」日々調子によって変化の中で、その時その時の状況に合わせて、試行錯誤し対応している。食後の食器拭きなど介護計画に組み込んでいる。	入居者の状態に合わせて、刻み食やソフト食などが提供され、また、入居者が参加して味噌汁を作ったり、食器拭きなどの後片付けが行われている。食事レクも行われ、入居者の希望に沿い、餃子作りや薯煮作りなどが実践されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は毎食後記録に残している。食べ方、むせ込み、嚥下の状態なども普段と違う様子が見られれば記録に残している。食事形態もご本人の能力に合わせて、常食、刻み、ムース食などの対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者の個々の状態に応じ、声掛けや介助を行っている。毎食後、義歯を外しブラッシングしている。また、夕食後は義歯洗浄剤を使用し消毒している。訪問歯科で口腔衛生指導も受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表を利用することで、排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導、介助を行っている。オムツは必要以上に使用せず、トイレで排泄できるよう支援している。	家族の金銭的な負担を考慮して、排泄支援には力を入れて取り組まれ、一人ひとりの間隔を考え、誘導することで日中は全員が布下着を着用いただいている。失敗があっても、何事もなかったような対応で支援をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘、脱水予防で一日1500cc前後の水分摂取を目標としている。 体操などの運動は行っているが、便秘改善に至らないため下剤を使用されている方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日中に行っている。週二回、ご本人の疾患などに留意しながら、ゆったりと入浴していただいている。入浴を好まない方はタイミングを見計らいながら声掛けし入浴していただいている。	職員と1対1の個浴で、入浴拒否がないように雰囲気作りや同性介助の希望にも応じられている。入浴中は職員とのコミュニケーションをとり、リラックスして笑顔になれる時間と捉えて支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者個々の生活習慣や、ペースに合わせて午睡や休憩が取れるよう声を掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時の相談内容や、薬の変更などの情報は常に記録や申し送りノートの活用などで共有している。薬の変更や追加処方時は、服薬後の様子観察に注意を払っている。変化がある場合は、看護師、主治医に連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割、楽しみを生活歴の中から探したり、直接ご本人から聞いたり、ご家族から聞いたりしながら情報収集している。持っている力を最大限発揮できるよう心掛けながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防において、買い物、外食、外泊などの外出は行っていないが、コロナ流行前は積極的に外出外泊は行っていた。	買い物や外食の実施は難しいが、今年の目標に「外に出かけること」を取り上げ、対策をとりながら衣類や嗜好品の買い物などに出かけられるよう検討されている。日常的には近隣への散歩、庭に出て日光浴や外気浴、お茶会などを楽しまれている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から「預り金」としてお預かりし、金庫で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者に月に数回ご家族に手紙を書かれています。また、面会ができない状況が続いているため、iPadでLINE電話を使用し、互いの顔を見てお話ができる環境を準備し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良く生活できるよう、季節感を感じる装飾や、レクリエーションで作成したものを飾っている。空調調整も、ご入居者が不快にならないよう常にご入居者の様子を観察しながら調節している。	全体に落ち着いた雰囲気のリビングには自然に入居者が集まり、壁に貼り出した写真をもとに会話も交わされている。共用空間には一人でいられる場所も作られ、更に車いすの入居者へ配慮し、通路には余計なものは置かず、安全、安心も確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で一人になって寛げるスペースはないが、フロアの各所に椅子を配置し、そこで一人になったり、ご入居者同士が話をされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火器や危険物などの持ち込みは禁止している。入居時の居室作りは、できるだけシンプルにしながら、馴染みの物をお持ち込みいただいている。認知症状の進行、身体機能を観察しながら適宜環境整備を行っている。	TVやチェストなどできるだけ使い慣れた家具を持ち込まれ、「自分の居室感」を大切にされている。各居室の入り口には入居者が迷わないよう、大きく書いたそれぞれの名前が貼ってあり、入居者がスムーズに動けるよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、バリアフリーの設計になっている。各居室前にはご家族が作成された表札を設置している。		

(別紙4(2))

事業所名: あおぞら宮寺

目標達成計画

作成日: 令和 5年 3月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の職員招集(一人一人の職員が、どのくらいの時間でホームに到着できるのか)	災害時、どのようなルートを通ってホームに向かうのかシミュレーションできる。	自宅からホームまでのルートを歩ける職員は実際に歩いてみる。 できない職員は地図上でルートの確認を行う。	12ヶ月
2	4	コロナの影響、実際にホームでのコロナの発生により運営推進会議を控えていた。	令和5年度、1回目の運営推進会議を行う。	感染対策を十分行いながら、運営推進会議の開催。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。